

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習指導Ⅲ Guidance and Evaluation on Childcare Practice Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修(保育実習指導ⅢまたはⅡのいずれか))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会的養護、社会的養護内容				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
保育所以外の児童福祉施設で保育実習を行う場合の実習内容、実習にあたっての注意点を学ぶ。また、社会的養護についての意義を再考し、その目的に沿った子どもたちへの支援を考えることを通し、個々の実習施設及び保育士の仕事について理解を深め、実践力を養う。				
授業の目標				
受講生の多くは児童発達支援、放課後等デイサービスなどで実習を行う予定である。保育実習Ⅲに向けて、実習する施設のサービス内容を再確認し、必要な基礎技術を習得することが目的である。子どもや保護者にとってより良い支援は何かを考え、適切なコミュニケーション・支援ができるようにする。それぞれの施設で専門職として必要な知識だけでなく、社会人としてのわきまへの大切さを自覚して取り組めるように、基礎的なマナーについても学び、保育士としての意識向上を目指すようにする。				
授業の方法				
学生が自分の実習配属先の施設の法的位置づけ、サービス内容を調べ、それに基づいた実習課題を考え、発表し合う授業形態をとる。後半では実習書類やマナーについて情報を提供する。				
学習の成果(学習成果)				
受講生のほとんどは保育所以外の児童福祉施設について、授業で学んだ以外は知らないと思われ、実習前にいくらか不安があると思われる。 ①それぞれの実習施設に応じた実習準備をすることで、施設保育士の仕事を理解し、積極的に実習に臨むことができる。 ②社会人としてのわきまのある行動をとることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(保育実習Ⅲのねらい、授業の進め方、評価の方法)、個別支援計画			
第2回目	各実習施設の理解1(法律上の位置づけとサービス内容を調べる)			
第3回目	保育技術を高める1(HPや先輩の資料より子どもの状態に応じた適切なかかわりを調べる)			
第4回目	保育技術を高める2(調べた内容を発表する、発表を聞き自分の調べを補う)			
第5回目	保育技術を高める3(調べた内容を発表する、発表を聞き自分の調べを補う)			
第6回目	保育技術を高める4(先輩の実習体験から、保育実践を学ぶ)			

第7回目	各実習施設の理解2（児童発達支援・放課後等デイサービスなどのまとめ）
第8回目	実習日誌の書き方1（「実習に臨んでの課題・抱負」）
第9回目	実習日誌の書き方2（「実習に臨んでの課題・抱負」を発表し、共有化する）
第10回目	実習日誌の書き方3（「実習に臨んでの課題・抱負」と「本日のねらい」の関連）
第11回目	実習日誌の書き方4（「本日のねらい」と「1日の活動記録」、「反省会記録」の関連）
第12回目	保護者への支援（保護者の気持ちを考える）
第13回目	実習に向けて1（実習書類の記入と確認・・・実習生調書、保健関係など）
第14回目	実習に向けて2（オリエンテーションの設定、細菌検査など）
第15回目	実習に向けて3（実習場面での細かな留意事項の確認、職業倫理）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	60%	保育士・実習生としてふさわしい態度とは何かを考えて授業に参加してもらいたい。
レポート	15%	「実習に臨んでの課題・抱負」の作成
調査報告書	15%	各実習施設の目的、支援内容を調べたものを発表する。
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	10%	調べた内容が分かり易いように、棒読みではなく、適度な声の大きさ・速さで発表する。
その他		

教科書と参考図書

佐野日本大学短期大学「保育実習の手引き」

履修上の留意点・ルール

発表はパワーポイントで行ってください。